



洋書輸入協会会報

Vol. 30 No. 4 (通巻347号) 1996年4月

理事会報告

3月22日(金)

(一) 2月分収支報告

3月21日(木)開催の総務委員会で審議の2月分収支について総務委員長の報告を承認した。

(二) 1996年度予算案審議

総務委員会より提出された1996年度予算について審議し基本的に承認した。昨年はやむなく会費を値上げし今後は更に経費を節減して次回を1年でも長く先送りすることとしたが幸い1995年度は事務局と各委員会の努力で次年度への繰越額を予算より60%以上多くすることが出来た。これを受け1996年度も緊縮予算を基本とし、事務局長の給与の据え置きをはじめ経費の殆どの項目を昨年並み若しくは削減とした。

(三) 公正取引委員会関係

昨年12月に引き続き3月12日及び19日に事務局長および18日には理事を代表して(株)極東書店の内藤社長の公取への出頭要請がありそれぞれ参考聴取を受けたことが報告された。

事務局長には昭和51年(前回公取の審決が出た年)より現在までの20年間の協会役員(理事)及び代行者の一覧表の提出要請、内藤理事には理事会の活動状況についての質問があった模様。

(四) 会員資格変更

賛助会員より正会員へ現在までに次の4社が申込みをされ3月より正会員となった。

アジソン ウエイズレイ ジャパン(株)

ペーカー・アンド・テラー・日本支社

ロングマン・ジャパン(株)

オービーケー (有)オビワン・ケヌービー

(五) 協会への寄付

去る1月、ユサコ(株)の山川隆雄会長が逝去され協会員が多数、通夜及び告別式に参列された。これに対し当日はもとより生前故人が協会および会員の方々にお世話になったので山川隆司社長より謝意を表したいとの申し出があり、3月15日事務局を訪れ、お礼として10万円を事務局長に手渡された。理事会としては30数年間理事として協会のために活躍された故人に感謝こそすれ寄付を頂くことは心苦しいが折角のお申し出でもありお受けることとした。

海外ニュース

ロンドン国際ブックフェア 1996

ロンドン国際ブックフェア (LIBF) が1996年3月17日から19日の3日間開催された。

今年はスペース、参加者共に過去最大の規模で、参加者の評価も過去最高のブックフェアとなった。参加者数は1万2千人で、海外からの参加者は1995年より11%増の3千人以上となった。アメリカからの大物や、トルコや中近東からの業者の初参加も見られた。

会場は、従来のグランドホールに加えて隣接するオリンピック・ナショナル・ホールが使用され、道路などにゆとりが出来、参加者の間で好評であった。

著作権の売買も活発に行われ、昨年度より30%増の220エージェントが3千件以上の商談を行った。

目次

理事会報告	1	文化厚生委員会だより	2	社報	4
海外ニュース	1	インターネットの学術情報の流通	3	洋書輸入通関統計(後編)	5
うちの会社	2	山川会長への弔辞	4	出版文化史逍遙(4)	7
				広告	8

フェアの目玉イベントは、2件開かれた。1つは、著名な作家が参加した討論や講演などのInteractive Book Festival、もう一方は子どもたちがCD-ROM 商品で自由に遊べる Follow the Mouse というプログラムである。どちらもマスコミの注目を集め、フェア拡大の第

一步として歓迎された。LIBF のディレクター、Mike Allsopp 氏によれば、来年度からはマルチメディア出版社向けのセクションも設置する予定であり、来年度の新機軸も注目されることである。

—Publishers Weekly April 1, 1996 号より—

うちの会社

株式会社 マイブックサービス

ふた昔も前になるが、本会報の昭和52年7月号に、下のような小社の紹介記事が載っている。

「昭和45年春、神田神保町すずらん通りてんぷら屋の裏二階にマイブックサービスが誕生した。洋書輸入販売のことだけしかできないという水上氏が、まず食べていくためであり、かねてからの念願であった“個性ある洋書業”を実行に移すためでもあった。同年9月、株式会社に組織を改め、翌年9月、現在のビルの一室に移り、着実に業績を伸ばしている。水上社長の主張は、サービスは価格によってではなく、それぞれの分野の研究者に的確な情報を提供することにある。それには、当然のことながら専門分野に限られるし、現に同社は水上氏が心理学を、村上社員（注：現・部

長）が美術を担当している。創立満7年（注：満26年）、ようやく基盤もでき、『頼られる洋書店』として、小さいながらも今後の前進が期待される」

この記事の注の二カ所を差し替えるだけで、いまも「うちの会社」に使えるのは、ほめられることかどうか。‘なにも足さない。なにも引かない’ 26年物のウイスキーだと自慢していいものか、「発展がなく、ただ食べてきただけではないか」と反省すべきか。

ま、すんだことはいい。これからが正念場だ。頭を使わないでこのままのやり方を続けるとジリ貧になりかねない。洋書業界はますます厳しくなっている。

（水上安弘）

文化厚生委員会だより

第79回 72会ゴルフコンペ

高坂カントリークラブ 1996年3月28日（木）

春の晴れ間とは72会のためにあると思わせる絶好のゴルフ日和り、東松山市街にあるフラットな高坂カントリークラブは以前フジサンケイクラシックの競技が催されたコースといえば思い出される方も多いかと思います。

当日の米山コースは各ホールとも松林に囲まれ池あり、距離は充分すぎる程長く、グリーンは難しく、トーナメント競技に参加している様な気分にさせてくれました。この難コースで見事優勝された紀伊國屋の筆保さんは2年半振りの参加（'93.10月69回武蔵Cスコア49、51の100）でしたが、今日は人が変わったみたい、ドライバーはプロも顔負けする程の280ヤード、アイアンは正確、パターはピンにからむ、すべてパーフェクト、終われば筆保 DAY 優勝、ドラコン、バスグロ全て手にしました。2位には1打差で東京ブラックランドの山田さん、58がなければとくやまれます。3位は高坂のメンバ

ー雄松堂の新田さん、48、49はお見事、コースのお手配ホスト役有難うございました。

成績表	グロス	ハンデ	ネット
優勝 筆保洋一郎（紀伊國屋）	87	10	77
2位 山田 勝彦（東京ブラックランド）	106	28	78
3位 新田 満夫（雄松堂）	97	16	81
4位 竹村 政彦（丸善OB）	94	12	82
5位 日和田早苗（紀伊國屋OB）	89	7	82

ドラコン

筆保洋一郎（紀伊國屋） 筆保洋一郎（紀伊國屋）
筆保洋一郎（紀伊國屋） 村上道夫（東京ブラックランド）

ニアピン

竹村 政彦（丸善OB） 三宅 昭三（丸善OB）
森田 要（東亜ブック） 村上道夫（東京ブラックランド）

ベストグロス 筆保洋一郎（紀伊國屋）グロス 87

（記：東亜ブック 鶴）

インターネットと学術情報の流通

丸善株式会社 松田和之

インターネットを基盤とするグローバルネットワークへの対応は、図書館の持つ社会的役割を大きくクローズアップさせ、学術情報の出版や流通の世界へもその潮流は大きく押し寄せて来ています。

電子出版とネットワークの融合は、全ての情報の生産流通過程に変革をもたらせ、従来著者とエンドユーザーとの間に位置した出版社、取次店、書店、図書館に対しても機能の変革を求めています。それぞれのサービス形態も多様化させざるを得ません。著者とエンドユーザーが直結され、インタラクティブな関係までも構築する構図も生じています。

インターネットと言う時代のキーワードはもはや市民権を得た如く一般社会の中で語られ、昨年12月号でご説明しました「NETWORK or NOTWORK」はまさに現実的なものとなってきました。

「電子図書館」に関する課題が昨年7月にベルギーのブリュッセルにおいて開催されたG7閣僚会議で国際的に取り上げられたこと、この国際共同プロジェクトの幹事国に日本になっていることは極めて意義深い事といえます。

現在電子図書館については「Digital Library」、「Electronic Library」、「Virtual Library」などと訳され、それぞれの学会が方法論を含めた議論を展開しています。とは言うものの、今や図書館は電子図書館への指向の有無にかかわらず変革を迫られており、その壁が既存システムと融合させながらも、着実に取り払われていきつつあります。

ベンダーの視点から現在の学術分野の状況を述べれば、まだまだ紙を基盤とした情報社会であるように思えますが、技術情報の視点からみると、各種メディアが実用化されており、図書館システム上では電子情報とコレクション（蔵書）を統合して考えることが必須となっています。

蔵書のデジタル化、電子出版物の貸出返却、著者、出版社、書店への支払い等、電子商取引や著作権に関する問題も大きくクローズアップされてきました。良きにつ

け悪しきにつけ情報処理技術の変革によって及ぼされる影響の大きさは私共の業界でも同様であり、インターネットやマルチメディア、電子図書館は週刊誌的な話題を大きく越えた現実的なものとなっています。

将来、それもごく近い将来、学術情報の流通に関して次のような変化が起こりうる事が海外では予測されています。国内の現状とは必ずしも一致しないとは思いますが一つの参考意見として記しておきます^[1]。

- (1) 図書館では、学術資料の紙による印刷物の収集が減少する。
- (2) 図書館では、印刷体の目録誌や抄録誌の継続購入が中止される。
- (3) ドキュメント・デリバリーが増加する。
- (4) 全文テキストや電子ジャーナルへのアクセスが必要になる。
- (5) コンピュータのハードやソフトのメンテナンス予算が増加する。
- (6) 現状予算の組み直しが必要になる。
- (7) 電子情報の取組について、組織内の専門家や業者とのつながりが強くなる。

ピーター・ドラッカーは「これからの教育の役割は、知識労働者を生み出すことである」と述べています。「教育ある人とは、知識を持っている人ではなく、いかにして知識を得るかを知っており、生涯学び続ける人のことである」とも述べています^[2]。

急激に変貌する情報社会への対応は、知的環境の創造を理念とした高度人間社会の創造でもあるのではないのでしょうか。

- [1] Sherrer, Johannah, -Collection Development in the Electronic Environment. (Electronic Proceedings of The Tenth Annual Computer in Libraries Conference, Feb 27- Mar 3, 1995)
- [2] Drucker, Peter F., The Age of Social Transformation. (The Atlantic Monthly, November. 53-58, 1994)

山川ユサコ(株)会長逝去さる

弔辞

山川会長突然の訃報に接し、私は驚きと深い悲しみに沈んでおります。昨年秋から病に臥され、その後入院されていたとのこと、お見舞いにも行かない内に今、ここに弔辞を読まなければならないことは残念でなりません。御社とは同じ洋書輸入協会のメンバーであるばかりでなく、会社の規模や歴史に共通するものがあり、日頃から親近感を持ってお付き合いさせて頂いております。

山川会長は昭和9年、27歳のお若さで山川商會を設立され、洋書輸入協会の創立以来のメンバーとして、協会の発展のために尽くされました。

戦後は、ユーエスエシアティック・カンパニーの名前で洋書の業務を拡大されました。私の父もその時期に会社を設立し、洋書輸入協会の理事として親しくお付き合いさせて頂いていました。御社はいち早くIBMのコンピューターを導入され、雑誌予約発注システムを自社にて開発されました。また、昭和57年には米国BRS社と提携され、オンライン事業に進出されました。コンピューター時代の到来を早くから予測され、積極的に投資し、洋書の業務にコンピューターを利用された先見性には深

い感銘を受けました。昭和58年にはCIを導入され、社名をユサコ株式会社と変更され、この時に社長職をご子息に引き継がれ、会長とされました。丁度この年、私も父の後を継ぐべく、洋販に入社し、はじめて山川会長にお目にかかりました。洋書業界に入りたての新米を温かく励まして下さったことを昨日のこのように思い出します。

以後、機会あるごとに会社の組織や業務について、ご子息の山川社長と一緒に詳しくお話をして下さいました。コンピュータやCIは、今でこそ日常的なものとなりましたが、10数年以上も前にこうしたことに着目され、次々と手を打たれたことは、私には大いに勉強になりました。

いつもお気持ちの若かった山川会長にお目にかかる度に変な刺激を受けたものでした。山川会長からもうお話を伺うことができないことは本当に残念です。心よりご冥福をお祈り申し上げ、弔辞とさせていただきます。

平成8年1月27日

日本洋書販売配給株式会社

代表取締役社長 渡辺正憲

訃報

白鷗洋書株式会社 代表取締役社長 秋山昭夫氏は4月8日脳内出血のため急逝された。享年60歳。

通夜、告別式は4月10日・11日、杉並・堀之内の福相寺においてとり行われ、協会員多数が参列、別れを惜しんだ。

会報委員会や基の「なかま」として皆に親しまれた貴重な存在であった。

JBIA DIRECTORY 1996

(洋書輸入協会ダイレクトリー1996年版)

25.7×18.2cm 360頁 会員価格 2,500円(送料共)
一般価格 4,500円(")
特別価格 8,000円(")

1995（平成7）年1～12月、洋書輸入通関統計とその分析（後編）

洋書輸入協会顧問 相 良 廣 明

6. 主要国以外からの洋書輸入状況

（表7） 主要6ヵ国以外で1995年1～12月に、書籍又は新聞・雑誌のいずれかで1,000万円以上日本へ輸入している国の一覧表

（単位 百万円）

国 名	1995年1～12月			1994年 実 績	前年比	1995年 総合順位	1994年 順 位
	書 籍	新聞・ 雑誌	計				
韓 国	175	93	268	221	121	14	14
N. KOREA	31		31	27	115	25	24
中 国	372	133	505	422	120	10	10
台 湾	331	7	338	186	182	12	15
香 港	1,169	320	1,489	1,761	85	6	6
タ イ	15	39	54	52	104	20	21
カンガポール	2,486	929	3,415	1,866	183	4	5
マレーシア	83	2	85	42	202	18	22
イ ン ド	21	2	23	20	92	26	25
デンマーク	43	100	143	111	129	15	19
アイルランド	22	100	122	132	92	17	17
ベルギー	35	2	37	35	106	24	23
ス ペ イ ン	116	11	127	138	92	16	16
イ タ リ ー	376	249	625	686	91	9	9
ロ シ ャ	48		48	309	16	21	12
オーストリア	27	52	79	78	101	19	20
スロベニア	42		42	—	—	(新)22	—
カ ナ ダ	35	6	41	128	32	23	18
エクアドル	12		12	—	—	(新)27	—
ブラジル	15	282	297	299	99	13	13
オーストラリア	357	10	367	320	115	11	11
ニュージーランド	11		11	—	—	(新)28	—

計22ヵ国

（注1） 書籍には単一シート、辞・事典を含み、新聞・雑誌には週4回以上を含む。

（注2） 総合順位は、主要6ヵ国を含んだもの。

〔分析〕

日本の洋書輸入先の総合順位は、1位・米国、2位・英国、3位・独国までは変わらないが、4位にシンガポールが入り、昨年4位のオランダが5位に後退した。以下6位・香港、7位・フランス、8位・スイス、9位イタリア、10位・中国と変化がない。このところシンガポールは毎年順位をあげ、躍進が目立つ。これには米書の流通経路の変化の問題が含まれているかも知れない。香港は返還が近くなったためか、やや落ち気味であるが、

それ以外の東アジア諸国は上昇中である。新顔は3ヵ国であり、新しく出来たスロベニアの他には、1,000万円以下ではあるがBOS HERとかCZECHとかSLOVA Kとかの名前が見える。

7. 洋書関連商品の輸入通関統計表

（表8） 1995年1～12月、洋書関連の商品別輸入通関統計表

（単位 百万円）

品 名		1994年 価 額	1995年 価 額	前年比
幼児用の絵本及び習画本		1,723	2,163	126
楽 譜		749	693	93
地図・海図 その他これ らに類する もの	地球儀・天球儀	146	162	111
	製本したもの	81	82	101
	その他のもの	206	422	205
小 計		433	666	154
葉 書		923	1,319	143
カレンダー	紙製又は板紙製	1,343	1,628	121
	その他のもの	149	116	78
	小 計	1,492	1,744	117
その他の印刷物	広告・商業用カタログなど	3,616	4,945	137
	写 真	1,011	798	79
	絵画・デザインなど	3,523	5,466	155
	その他のもの	20,149	25,739	126
小 計		28,299	36,948	131

（注1） 楽譜は、印刷したもの及び手書きのものに限るものとし、製本してあるかないか、又は挿絵を有するか有しないかを問わない。

（注2） 地図、海図その他これに類する図は、製本したもの、壁掛け用のもの、地形図および地球儀、天球儀その他これらに類するものを含むものとし、印刷したものに限る。

（注3） 葉書は、印刷したもの及び挿絵を有するものに限る。また個人のあいさつ、伝言または通知を印刷したカードを含む。なお、この品目は'87までは、「絵葉書、クリスマスカード、その他これらに類する絵入りのカード」となっていた。

（注4） カレンダーは、カレンダーブロックを含むものとし、印刷したものに限る。

〔分析〕

洋書の関連商品は、それぞれ浮き沈みをしている。しかし1980年を100とした場合の1995年の指数が、書籍が107、新聞・雑誌が158、合計で123となっているのに対し、絵本は764、楽譜は116、地図・海図などが53、葉書などが922、カレンダー類が357、写真が169、印刷絵画・デザインなどは実に1,160、その他の印刷物のその他のものが787と、地図・海図と楽譜を除いては、すべてが洋書そのものよりも遙かに高い成長率を示している。皮肉なことに、その他の印刷物の中のその他のものは、1980年に僅か33億円であったものが、'95は実に257億円と、印刷物の本家本元の書籍を追い越してしまっている。検討に値する現象である。

8. マイクロフィルム、文献情報検索用磁気テープと CD ROM

(表9) 1995年1～12月、マイクロフィルム、文献情報検索用磁気テープと CD ROM の輸入通関統計表と、'90年以降の推移

(単位 百万円)

品 目	'90	1994	1995	前年比	'90 : '95
マイクロフィルム	780	524	527	101	% 68
記録用の媒体・テープその他の「磁気テープ」のうち「幅が6.5ミリを超えるもの」の中で「その他のもの」……文献情報検索用磁気テープを含む	5,650	1,540	1,785	116	32
「その他のもの」の中の「その他のもの」……CD ROMを含む	10,919	30,319	40,162	132	368

(注) マイクロフィルムは、品目番号表の変更によって1988年から独立した項目になったので、同年以降の経過を一覧表としたが、数字上では'88～'89年は全く実態を表さず、'90年から実情に近い数字となっている。

(注2) CD ROM は、この通関統計表に今回初めて掲載する。

(注3) 文献情報検索用の磁気テープと CD ROM は、いずれも上記数字の中の一部である。

〔分析〕

マイクロフィルムと「文献情報検索用磁気テープなど」は、いずれも'90以来漸減（急減）しているが、「CD ROM など」は毎年急増している。

9. 輸出

(表10) 1995(平成7)年1～12月、書籍、新聞・雑誌の輸出通関統計表

(単位 百万円)

分類	品 目	'94.1～12 輸出価額	'95.1～12 輸出価額	前年比	構成比
書籍	単一シートのもの	433	262	61	
	辞典及び事典	205	163	80	
	その他のもの	19,874	17,686	89	
	小 計	20,512	18,111	88	78.8%
新聞・雑誌	一週4回以上発行	222	253	114	
	新聞	3	1	33	
	雑誌その他の定期刊行物	4,793	4,618	96	
	小 計	5,018	4,872	97	21.2
計		25,530	22,983	90	100.0

(注) 新聞の1百万円は、四捨五入前は75万円。信じられない数字である。

(表11) 1990～1995年、書籍、新聞・雑誌の輸出通関統計推移表

(単位 百万円)

暦年	書 籍				新聞・雑誌				計			
	価 額	前年比	指数	%	価 額	前年比	指数	%	価 額	前年比	指数	%
1990	31,730	107	95	5,141	115	86	36,871	108	94			
'91	29,296	92	88	5,085	99	85	34,381	93	88			
'92	28,056	96	84	5,163	102	86	33,219	97	84			
'93	23,154	83	69	4,949	85	83	28,103	85	71			
'94	20,512	89	61	5,018	101	84	25,530	91	65			
'95	18,111	88	54	4,872	97	82	22,983	90	58			

(注) 上記の表のうち指数は、1985(昭和60)年を100として算出したもの。

(表12) 書籍、新聞・雑誌計の、輸入と輸出の構成比率推移表

分類	1979	'84	'86	'87	'90	'91	'92	'93	'94	1995
輸 入	% 70	50	44	50	58	54	58	59	61	% 65
輸 出	30	50	56	50	42	46	42	41	39	35

〔分析〕

5年連続の円高は、通常輸入を増大させ、輸出を減少させるものであるが、'90年比'95年の書籍は、輸入26%減、輸出は43%減と、輸入は増大どころか減少、輸出は5年間の通算円高率34%を若干上廻る減少と、書籍の将来にとっては寒心すべき状況である。ただしこの状況を、CD ROM や電子出版の影響と言うのは、未だ時期尚早であろう。

(終り)

英語辞書の歴史—ジョンソン以前—〔4〕

丸善・本の図書館 鈴木 陽 二

◆18世紀の英語辞書—ジョンソンへの序曲—

前回まで17世紀における難解語辞典のおおまかな流れを見てきたが、18世紀に入ると一般英語語彙を収録した辞書が編集されるようになった。ジョンソンの辞書が誕生する序曲となったもので、その中の重要なものを幾つか紹介しておきたい。

1702年に J. K. という編者により“A New English Dictionary”が公刊された。J. K. は明らかに“John Kersey”だというのが定説であるが、確定する資料はなく、異論も出されている。ともあれ、これは一般的な英語語彙を収録した初めての辞書として重要なもので、この辞書の出現によって、英語辞書は難解語辞典から決別したと見られている。cat, dog, bad, good, in, on, などアングロ・サクソン系の日常語 (common words) を大幅に取り入れたことで、従来の辞書に見られない新しい方向を打ち出した画期的な辞書であった。特殊なラテン語・廃語・専門的すぎる語を捨てて2万8千語を掲載し、それぞれに簡潔な語義が与えられている。中には「ドッグ=動物」「チェリー=果物」というように語義にもならないような記述が見られ、語義が短くて不適切という批判も受けたが、それにもかかわらずこの辞書は評判が良く70年間に及ぶ増刷刊行がおこなわれた。

カーギーはその後、前回触れたフィリップの『英語の新世界』の改定に携わり、原本に2万語を加えて約2倍に及ぶ3万8千語の辞書を1706年に上梓した。主として専門用語を中心に増訂を図ったのであるが、一つの単語が複数の意味を持っていることを認識して改定を行ったことは、辞書編集で初めての試みであった。次いで1708年には“Dictionarium Anglo-Britannicum”という辞書を刊行したが、日常英語の多くが除かれ、上述の辞書と一変して難解語辞典の系列に属するものであった。

続く1721年に、学校教師ベイリー (Nathan Bailey) がすべての語を収録しようと意図した初めての辞書“An Universal Etymological English Dictionary”を刊行した。ジョンソン以前の英語辞書として頂点に立つといわれた辞書で、カーギーの『アングロ・ブリタニウム辞典』を参照して編纂した見出し語4万の辞書であった。

表題どおり語源とその出典を記載しており、同時に隠語、卑語、禁句、方言、廃語なども収録した。大変評判の良かった辞書で、1755年に刊行されたジョンソンの辞書よりも評判が良かったともいわれ1802年まで30版を重ねた。次いでベイリーはこの辞書を発展させ、1730年に見出し語4万8千の“Dictionarium Britannicum”を刊行し、1733年にはその第2版を刊行した。この第2版こそジョンソンの辞書の土台になったものであるが、二つ折り本、収録語彙6万、920ページの大きな辞書で、500の挿絵を掲載し、チェンバーの百科事典 (1728年刊で近代的百科事典の嚆矢) から専門用語や諺などを採り入れ、語源やアクセントまで表示した。

ジョンソン以前の代表的な英語辞書となったベイリーの辞書に続いて1749年に刊行された Benjamin Martin の“Lingua Britannica Reformata”は、一つの単語が異なる語義を持つ場合、単一の見出し語の中に数字で語義を分けて表示する Numbered Definition を初めて採用した辞書であった。この辞書が出るまでは、通常語義が異なるたびに見出し語を立てていた。ベイリーの Universal と Dictionarium から専門的すぎる語を除いて24,500語に圧縮し、そのほかにも英仏辞典やラテン語辞典を参照して編纂した。語義の配列については、克明に順番を規定するなど、それまでの辞書にない新規な構成のものになった。しかし、“Numberd Definition”は実はジョンソンの創案を盗用したものだという説も出されている。ジョンソンが1746年に公表した『新英語辞書計画』に語義の付け方についてこのアイデアを提示していることから、Numberd Definition はジョンソンが初めて創造した手法であったとの解釈が主流を占め、この方式は彼の功績に帰せられている。

以上、ジョンソン以前の重要と思われる英語辞書編纂の流れを総括したが、ジョンソンの辞書が生まれるに至った背景については、後日ジョンソン辞書の紹介の時に改めて述べてみることにしよう。(参照図書：小島義郎『英語辞書物語』／永島大典『英米の辞書—歴史と現状』／シドニー・I・ハンドウ著小島義郎訳『辞書学のすべて』／寺沢芳雄『英語史総合年表』)

医学の最新情報を世界と同時に、しかも日本語アブストラクトで手早く！

忙しい医師の方々のために

The New England Journal of Medicine が 1996 年より変身！

The New England Journal of Medicine 日本国内版に 1996 年 1 月初号より主要論文の日本語アブストラクトが掲載されることになりました。

The Massachusetts Medical Society が毎号掲載の Original Articles や Special Articles

のサマリーを日本の購読者の方々のために特別に翻訳・掲載いたします。

このサービスにより主要な論文のアブストラクトを日本語で素早くサマリーでき、必要な論文の概要を簡単にファイリングすることが可能になります。

The New England Journal of Medicine

Massachusetts Medical Society

This is what you receive each week
when you subscribe to the *Journal*.

● Original Articles

疾患の原因や治療についての臨床的研究を中心としたオリジナルの解説記事。

● Review Articles

医学の進歩、薬物療法、疾患の最新の概念・メカニズム、医学セミナーに関する実践的な報告は、大きな進歩や話題となっている問題の専門的な概要を提供する。

● Case Records from the Massachusetts General Hospital

診断技術を磨く上で役立つ実践的なケースレコード。

● Editorials

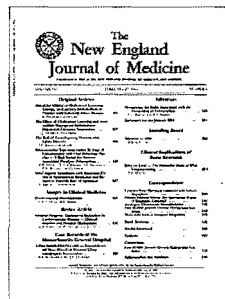
重要な研究、臨床上の問題や政治的問題に関する鋭い解説。

● Correspondence

読者、寄稿者、編集者間で活発に続いている世界的な対話。

● Special Articles

医学の社会的、経済的、政治的、倫理的に重要な内容に関するタイムリーな論評。



● 1996 年 (Vol.334-335) 週刊

● 年間購読価 (税抜き)

¥24,500 (個人) ¥33,000 (団体) ¥15,900 (レジデント・学生)

(レジデント・学生でのお申し込みには証明書が必要です)

● 専用バインダー <1 年分> ¥7,600 (税抜き)

日本総代理店 (株) 南江堂洋書部



〒113 東京都文京区本郷3-42-6 ☎ (03) 3811-9950

1996 年 4 月 通巻第 347 号 洋書輸入協会

編集者 神田 俊二

〒103 東京都中央区日本橋1-21-4 千代田会館 5 階 20 号室

☎ (03) 3271-6901 FAX. (03) 3271-6920

印刷所—藤本綜合印刷株式会社